様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

# 科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ５ 月　 ５ 日現在

機関番号：３２６３８
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2011～2013
課題番号：２３５２０３２４

研究課題名（和文）１７世紀における伊英文化の邂逅に出版が果たした役割についての実証的研究

研究課題名（英文）A Bibliographical Catalogue of Italian Books Published in the Seventeenth Century

研究代表者
冨田　爽子（Tomita, Soko）

拓殖大学・工学部・教授

研究者番号：３０１９７９２５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　3,900,000円、（間接経費）　1,170,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は1603年から1642年に英国で出版された‘Italian Books’を調査し、研究者が確立したメソッドで、書誌学的記述を試み、イタリア　ルネッサンスの大きな影響を受けて英国文化を開花させたその過程で、出版の果たした役割を明らかにすることを目的とする。1642年以降、大変容を遂げる英国の出版活動の直前に、‘Italian Books’が英国の文人や知識階級、及び、劇作家とどのような文化的邂逅を遂げたかを実証的に検証し、当時の英文学や英国演劇にどのような影響を与えたかを明らかにしようとするものである。研究は概ね順調に進んだ。まだしばらく修正作業が続くが、無事に完成させたい。

研究成果の概要（英文）：A sequel to Tomita's A Bibliographical catalogue of Italian Books Printed in England 1558-1603, this study provides the data for the succeeding forty years (during the reign of King James I and Charles I) and contributes to the study of Anglo-Italian relations in literature through entries on 187 Italian books (335 editions) printed in England. The Catalogue starts with the books published immedately after the death of Queen Elizabeth I on 24 March 1603, and ends in 1642 with the closing of English theatres.
Formatted along the lines of Mary Augusta Scott's Elizabethan Translations from the Italian (1916), and adopting Philip Gaskell's scientific method of bibliographical description, this research provides reliable and comprehensive information about books and their publication, viewed in a general perspective of Angl-Italian transactions in Jacobean and part of caroline England.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・英米・英語圏文学

キーワード：英米文学　１７世紀　イタリア　書籍　出版　書誌学　翻訳　ルネッサンス

１．研究開始当初の背景

応募者STCは永年、16世紀、17世紀の英国においてイタリア文化がどのようにして英国文化に溶け込み、英国民のアイデンティティー確立に寄与したか、そして前代未聞の英国演劇の開花を促したかを研究しており、平成１８年、エリザベス朝（1558年－1603年）の期間の出版を論文に纏めて英国バーミンガム大学シェイクスピア研究所に提出し、高い評価を得て文学博士号を授与された。エリザベス朝におけるイタリアの影響は否定することの出来ない事実であり、前世紀を通じて多くの研究者がさまざまな角度から議論してきた。20世紀初頭に刊行されたMary Augusta Scott の記念碑的著作、*Elizabethan Translations from the Italian* (Boston: Houghton Mifflin, 1916) を皮切りに、Frances Yates, F.O. Matthiessen, Mario Praz, M.J. Levith, Louise George Club, Leo Salingar など、そのアプローチの方法も多岐にわたる。特に Club の研究以降はイタリアから英国への「影響（influence)」と捉えられていたものが「邂逅（encounter)」と認識されるようになった。この認識に基づいて Intertextual studies が批評の中心となり、従来の source studies に取って代わった。Intertextual studies は実り豊かな成果をあげているが、このアプローチは、その一方で扱う素材の厳密な位置づけを今まで以上に必要とする。素材を当時の環境に正しく置いて考察することがますます不可欠となってきている。

応募者は平成21年、上述の博士論文を加筆訂正して、英国 Ashgate 社から出版した。題名は *A Bibliographical Catalogue of Italian Books Printed in England 1558-1603* である。本書は *Reference Reviews* (Vol. 23, Number 8, Emerald Group, 2009) において詳しく紹介され、‘It provides a first-class role model for any future bibliography’と絶賛された。また、英国 Hull 大学の Dr. Jason Lawrence は ‘It is an impressively exhaustive work of bibliographical scholarship’ と評価している(*Sharp News*, Vol. 19, No.1, 2010)。さらに、イタリアの学術誌 *La Bibliofilia* (Vol. 112, Leo S. Olschki, 2010) においても取り上げられ、Luigi Balsamo 氏が、量的のみならず、質的にも単なる書誌学の域を超えた高いものと書評している。また、Genoa 大学の Professor Anna Giulia Cavagna は *Testimonianze Editoria Cultura Arte* (n.4, 2013) で本書を高く評価して、詳しく紹介している。本テーマについて英国では Exeter 大学から講演を依頼された。この一連の経緯の中で、続編を編纂する考えが浮かび、1603年から 1642 年の間に英国で出版された‘Italian Books’ の書誌を編纂することにした。

２．研究の目的

近世初頭において文化的後進国であった英国は、イタリアルネッサンスの大きな影響を受けて、その文化を開花させた。その過程において、出版の果たした役割は極めて大きい。本研究は、1603 年から 1642 年に英国で出版された全ての‘Italian Books’ を調査し、応募者が確立したメソッドによって書誌学的記述を試みる。

英国の出版活動はエリザベス朝、ジェームズ朝を通じて順調な発展を遂げていくが、1641 年の劇場閉鎖や出版物に対する検閲の廃止などにより、1642 年以降劇的に変容する。その大激変の直前にどのような時代的、文化的な動きがあったかは、今まであまり実証的な研究がなされていない。それらの‘Italian Books’ が英国の文人や知識階級、及び、劇作家とどのような文化的邂逅を遂げたかを実証的に検証し、当時の英文学や英国演劇にどのような影響を与えたかを明らかにする。第１巻で確立した独自の原則と方式を生かして、本研究を短期間で完成させる。

３．研究の方法

本研究の独自性のひとつは、1972 年に Philip Gaskell が完成させた書誌学的記述の積極的活用である。イタリア書籍を一冊ごとに丹念に記述していくことで、400年前の英国人が眺めたままの書籍の姿と、その書籍を取り巻く人間模様を提示することが出来る。また 16－17 世紀のロンドンで活躍した印刷業者についても分析を行う。当時の印刷業者は、ただ単に本を印刷するだけではなく、文化人として高い見識と信念を持ち、時代の最先端を行く人たちであった。本研究においてはイタリア文化の受容にあたって重大な役割を果たした印刷業者についても検証し、激変直前の時代とのかかわりを明らかにする。

エリザベス朝とそれに続く 17 世紀の英国とでは、社会も出版を巡る状況も変わってきている。第１巻での研究を踏まえて、この２つの時代の違いを明確にする。

４．研究成果

研究は概ね順調に進み、その成果をほぼ纏める事が出来た。

（１）データベース

1603 年－1642 年の間に英国で出版さ‘Italian books’を 335 冊抽出し、データベースを完成させた。データベースにはこの 335 冊について次の事項を含む

① 出版年
② 書物の版の種類（初版、再版、刷の種類等）
③ 著者
④ 翻訳者
⑤ 編集者
⑥ 印刷者
⑦ 発行者
⑧ 出資者
⑨ 書籍販売者
⑩ 献呈者
⑪ 称徳詩作者名
⑫ ジャンル
⑬ 所蔵図書館と shelfmark
⑭ 出版登録
⑮ 折記号
⑯ 仕立て
⑰ イタリアの原典についての詳細
⑱ 書誌学的記述の記載番号

この資料をもとに各書物の書誌学的記述を行った。

1603 年の Elizabeth I 崩御以降から 1642 年までに、英国で出版された研究者の定義による‘Italian books’の冊数を、年ごとに見ると以下のとおりである。

| | |
|---|---|
| 1603 年 | 3 冊 |
| 1604 年 | 7 冊 |
| 1605 年 | 8 冊 |
| 1606 年 | 14 冊 |
| 1607 年 | 20 冊 |
| 1608 年 | 14 冊 |
| 1609 年 | 17 冊 |
| 1610 年 | 5 冊 |
| 1611 年 | 9 冊 |
| 1612 年 | 10 冊 |
| 1613 年 | 11 冊 |
| 1614 年 | 6 冊 |
| 1615 年 | 6 冊 |
| 1616 年 | 11 冊 |
| 1617 年 | 12 冊 |
| 1618 年 | 9 冊 |
| 1619 年 | 8 冊 |
| 1620 年 | 9 冊 |
| 1621 年 | 6 冊 |
| 1622 年 | 5 冊 |
| 1623 年 | 5 冊 |
| 1624 年 | 5 冊 |
| 1625 年 | 9 冊 |
| 1626 年 | 4 冊 |
| 1627 年 | 3 冊 |
| 1628 年 | 8 冊 |
| 1629 年 | 9 冊 |
| 1630 年 | 13 冊 |
| 1631 年 | 9 冊 |
| 1632 年 | 9 冊 |
| 1633 年 | 6 冊 |
| 1634 年 | 12 冊 |
| 1635 年 | 9 冊 |
| 1636 年 | 6 冊 |
| 1637 年 | 5 冊 |
| 1638 年 | 8 冊 |
| 1639 年 | 9 冊 |
| 1640 年 | 10 冊 |
| 1641 年 | 2 冊 |
| 1642 年 | 4 冊 |
| 計 | 335 冊 |

（２）書誌学的記述
上記のデータをもとにして、書誌学的記述を試みた。その内容は以下のとおりである。

① 書誌学的記述の記載番号
‘Italian books’と見なされた上記の 335 冊について、1603 年～1642 年の間で初めて出版された版を、原則として出版の年代順に列挙し、同一年の中では著者または翻訳者名、あるいは題名のアルファベット順に記載した。個々の作品に記載番号を与え、再版、再刷にはその旨記載したひとつの作品について別人による複数の英訳が出版されている場合は、同一記載番号で対応したが、翻訳言語が異なる場合には（例：ラテン語訳）、独立した記載番号を与えた。この記載番号は、本カタログの全ての部署に記載され、あらゆる角度から、さまざまな情報にアクセスできるようにした。各ページにはこの記載番号と *The Short Title Catalogue*（*STC*）に基づいた出版年の見出しをつけてある。
② 簡略書名
スペースの関係から、題名を全て記述することは出来ないので、原則として *STC* に記載されている題名の最初の数語を簡略書名として採用している。しかしキーワードが含まれていない場合は、キーワードを優先して採用した。スペリングは原則として *STC* の綴りを採用したが、i, j, u, v は現代綴りに直した。冠詞、代名詞、接続詞を除いて、最初の文字は大文字とした。
③ ジャンル
ジャンルは特に重視した。英国の読者の傾向を探るのに重要と考えたからである。各作品のジャンルはカタログの各項目の最上段に、簡略書名に並べて記載してある。ジャンルというのはある意味では根拠のない分類であり、全面的な是認を得ることは難しい。本研究では調査対象の書物を大きく 2 つのジャンルに分けた。ひとつは抽象的思考に関するもの（例：文学、戯曲など）、もうひとつはより生活に密着した実用的なもの（例：言語、ハンドブック、マニュアル、旅行記、歴史書と政治、法律、宗教など）である。また、外国語（例：ラテン語、イタリア語など）で出版された書物も本カタログに含めたが、それらの本も上記の 2 つのジャンルに再分類してある。
④ 出版年
書物の表紙に出版年が印刷されていない場合は、出版年を[　]で囲って区別した。
⑤ 版の特定
カタログでは該当書が初版であるか、再版、または再刷であるかの区別を明記した。版の扱

いは基本的には *STC* に従っているが、作品が Part 1, Part 2, Part 3 のように、先に出版された内容と重複していない場合は、別の本として扱った。

⑥ STC 番号

*STC* の第 2 版に拠る。

⑦ 所蔵場所

カタログ利用者の便宜のため、調査した書物が所蔵されている図書館名と、蔵書記号を記載した。図書館名の略語は *STC* の第 2 版に拠った。

⑧ 印刷者・出版社名

記載は印刷者、出版者の順である。つづりは *STC* のスペリングを採用した。出版地はことわりがない限り、ロンドンである。

⑨ 表紙の転写

表紙を転写するにあたっては Philip Gaskell の *A New Introduction to Bibliography* (Oxford: Clarendon, 1972, 1985) で述べられている翻刻の規則にのっとって、可能な限り実物に忠実に移した。表紙に印刷されている出版事項も題名と共にオリジナルのつづりと書体で記載した。そのほか扉の飾りや枠などできるだけ詳しく記述してある。

⑩ 書籍の構造式

書物の構造を示すために、フォーマット及び照合を記載した。フォーマットは 4°, 8° のように数字で記載し、サイズと折り丁を記載した。構造式には落丁や変則的な折り丁も記載してある。折り記号が欠けており、それが何かが明らかに推測できる場合はイタリックで記載して示した。ページ数や折り丁の印字の間違いも記載したが、10 箇所以上の間違いがある場合は 'irregularly misprinting' あるいは 'irregularly signed' と表記してある。

⑪ 書籍出版組合の登録

Edward Arber の *A Transcript of the Registers of the Company of Stationers of London: 1554-1640. A.D.*, 5 vols (London: Privately printed, 1875-94) に拠って、記載した。

⑫ 書物の内容

書物の内容については折り丁をつけて、簡単に記載してある。詳細の程度は作品によって多少異なる。一貫性よりも、文化交流の観点から見た各書物の重要性に鑑みて判断した。つづりに関しては、極力正確を期したが、表紙の転写とは異なり、書体などは統一した。しかし本書の記述は Gaskell より詳細に及んでいるため、原文からの引用は鉤括弧で区別している。

⑬ 書物のサイズ

研究者が調査した書物の紙葉の大きさは cm で縦×横で記載してある。当時は、1 冊ごとに、端を切りそろえるため、本によってサイズが異なることを念頭に置く必要がある。

⑭ 注釈

各書物に以下の注釈をつけた。

a. 出版情報を中心とした該当書物の簡単な説明。
b. 該当書籍が 'Italian book' として本カタログに収められている理由を説明する。
c. 献呈、推薦、編集、翻訳など該当書籍を出版するにあたって関与が認められる人物について説明する。
d. 該当書籍の後の版に関する情報について説明してある。刷に関しては、簡単に言及はしてあるが、版と同等には扱っていない。
e. 該当書籍についてのその他の情報を記載した。各部署ごとに用いられている書体、該当書籍の所有者など、できるだけ詳しく記述してある。

(3) カタログ作成にあっての留意事項

書誌学的記述では、*STC* 及び *English Short Title Catalogue* (*ESTC*) を十分に活用し、正確を期した。従って全ての版に STC 番号をつけてある。*STC* と *ESTC* の記載が異なる場合には、断りのない限り *ESTC* を優先させた。更に最新の情報を組み入れるため、*ESTC Online* も参照した。同様の理由で、*Grove Music*, *ODNB Online*, 英国の大学図書館総合目録 *Copac*、*Censimento nazionale delle edizioni italiane del XVI secolo* など、その他のデータベースも参照した。

カタログ作成に当たっては *Early English Books Online* (*EEBO*) やマイクロフィルム (*UMI*) などの代用品も用いたが、可能な限り現物に当たって調査することを重視した。幸いなことに大英図書館にはイタリア関係の書物の多くが所蔵されているので、複数の図書館に所蔵されている場合は、大英図書館の書物を本カタログの基本図書とした。正確さと読者の便宜を図るため、所蔵図書館の図書記号も記載してある。調査を通じて痛感したのは、情報技術の進歩にもかかわらず、現段階では技術は未だ現物の書物に取って代わるには至っていない。印刷や製本過程に時折発生する紙葉の誤挿入などはやはり人の手で処理せざるを得ない。更に実際に現物を調べることで、手書きの書き込み、出版者の意匠標章、サイズ、紙質、装丁、活字などについて多くの情報を得ることが出来た。

情報技術の社会では視覚効果が大切な前提条件となる。そのため本カタログでは、読者の理解の助けとなるような視覚補助資料を使用している。この種のカタログは読者が頻繁に参照することを最優先にして作成すべきなので、読者が利用しやすいカタログ作りを心がけた。即ち、グラフや沢山の情報を盛り込んだ表、表紙の画像や詳しいインデックスを付け加える。これらの特徴とその意義について以下に記す。可能な限りさまざまな角度から、利用者が本カタログの本体にアプローチできるよう配慮した。

① グラフ 1.1 英国における総出版物の推移 (1558-1642)

本グラフは Elizabeth 朝の 1558 年から 1700 年までの 143 年間に英国で出版された全ての出版物を年ごとに表したものである。このグ

ラフから今回の研究対象となった 1603 年から 1642 年までの出版活動が全体の中でどのような立ち位置にあったかを俯瞰することができる。

② グラフ 1.2 英国における Italian books の出版の推移(1558―1642)

本グラフは 1558 年から 1642 年までの 85 年間に英国で出版された Italian books を年ごとに、またジャンル別にその冊数を表したものである。

文学批評の世界では長い間科学的あるいは数学的な道具をその分析に用いることに不審感を抱くことが多かった。75 年以上も前に Caroline F.E. Spurgeon が *Shakespeare's Imagery and What It Tells Us* (Cambridge: Cambridge University Press, 1935) において七つのグラフをカラーで用いたが、画期的な著作にもかかわらず、後に続いてグラフを積極的に活用するものはいなかった。近年、コンピュータ技術の躍進と共に視覚に訴える例示の有効性が文学研究においても再認識されるようになったが、それでもまだ控えめである。確かに文学を考えるにあたって、科学的、数学的手法を用いることで大切なものを失うという危険が伴うことも事実である。しかし、コンピュータ無しでは済まされない 21 世紀にあっては、この 2 つの思考形態は互いに近づきつつあるように思える。

グラフは個と全体の関係を示すのに、また時間の経過においてその関係を捉えるのに効果的である。上述したように、本カタログでは書物をジャンルによって大きく 2 つに、そして更に 11 に小さく分類した。当時の人々の関心の広さを反映して多岐にわたっていることが分かる。

③ 表 1.1 'Italian books の出版概要 (1603-1642)

この表は後に続く書誌学的記述のダイジェスト版であり、上述のデータベースの一部である。

④ 'McKerrow'又は'McKerrow and Ferguson' に掲載されていない仕切りや意匠標章が用いられている表紙

本カタログで扱った書物の内 Ronald B. McKerrow の *Printers' Devices in England and Scotland* (London: The Bibliographical Society, 1913) にも、Ronald B. McKerrow and F.S. Ferguson の *Title Borders Used in England and Scotland 1485-1640* (London: Bibliographical Society, 1932)にも掲載されていない表紙のうち、主なものをオリジナルからのファクシミリで収録してある。これらの意匠を言葉では説明できないからである。これらの表紙は本体の書誌学的記述を視覚的に補填している。

⑤ ジャンル別にみた'Italian books'

グラフ 1.2 をジャンル別に分けたグラフで、書籍全体の中でそれぞれのジャンルがどのような位置を占め、また出版数がどのように変化していったかを視覚的に捉える。

以上の点を考慮しつつ当初の計画通り、1603 年から 1642 年の間に英国で出版された 'Italian books' の詳細な書誌を作成した。総単語数は約 16.5 万語 (index を含まず)に及んだ。今後詳細な index を作成し、出版に向けて一層努力したいと考えている。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　０件）

〔学会発表〕（計　１件）

水野　晶子、「英語の授業での成功体験を――授業の中での様々な試み――」
日本英語文化学会第 126 回月例会にて（2013 年 12 月 14 日（土）

〔図書〕（計　１件）

水野　晶子、『北米文化事典』高山信雄・田中保・市川仁・福島昇・江田治郎　監修
日本英語文化学会編
2012 年 3 月 30 日発行　（共著）

〔産業財産権〕

○出願状況（計　０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

６．研究組織

(1)研究代表者

(1) 研究代表者
冨田　爽子(TOMITA SOKO)
拓殖大学・工学部・教授
研究者番号:30197925

(2)研究分担者

水野　晶子(MIZUNO　AKIKO)
拓殖大学・国際学部・教授
研究者番号:60384707